

## データで見る大阪府立病院機構（R2年度決算）

- 売上高（医業収入）は**約800億円**（R1比では▲40億円）  
← コロナによる受診控え、コロナ患者受け入れによる病棟閉鎖  
法人化前（H17）と比べるとほぼ倍増
- 資金収支決算は、**約50億円の黒字**（法人化以後、15年連続）  
← 医業収支は▲69億円だが、コロナ関連補助金99億円による

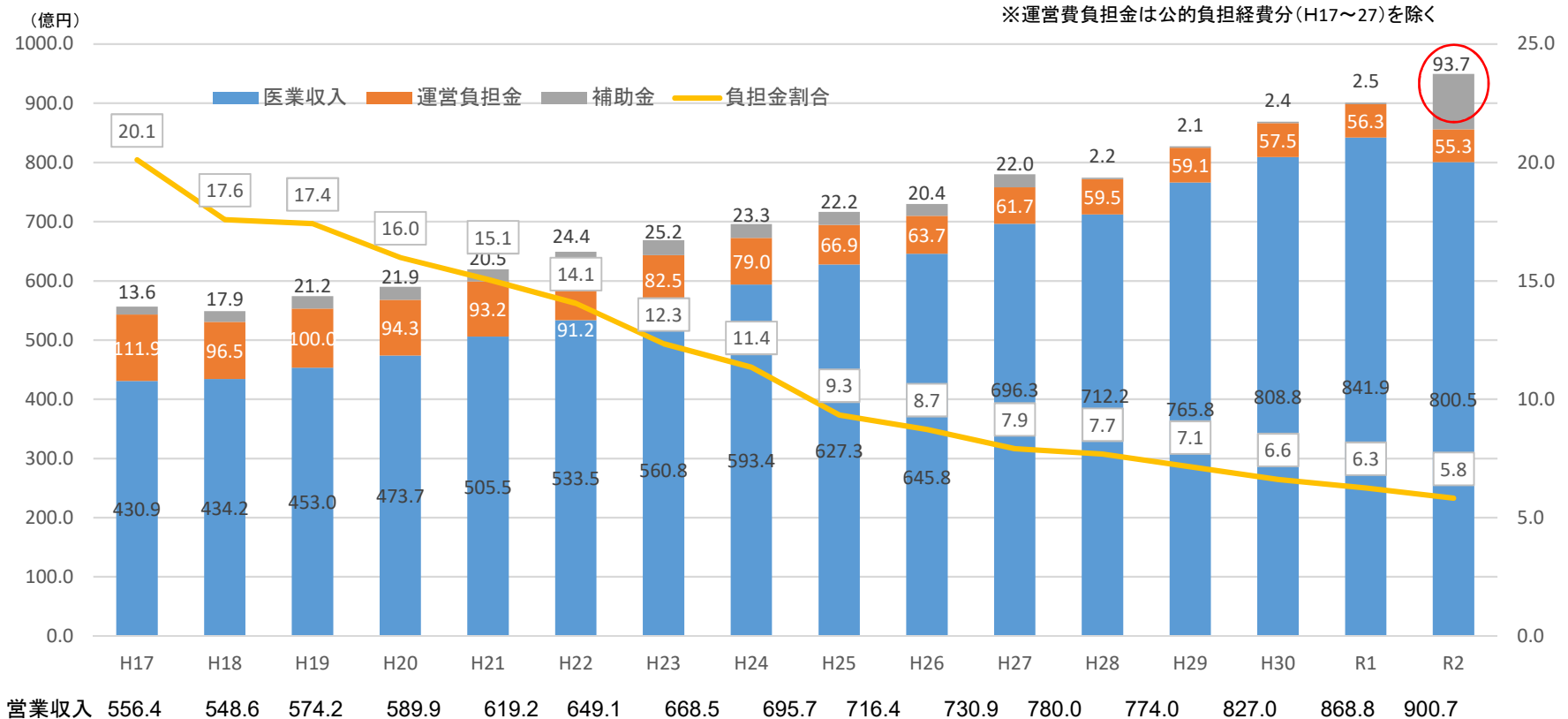
資本金 **200億円**    保有資産 **1,200億円**  
運営費負担金（注）    **55億円**

（注）運営費負担金

他の病院では実施が難しい医療や、不採算な医療など、大阪府の医療政策上の事業を実施するための大阪府からの負担金

# 営業収入の推移

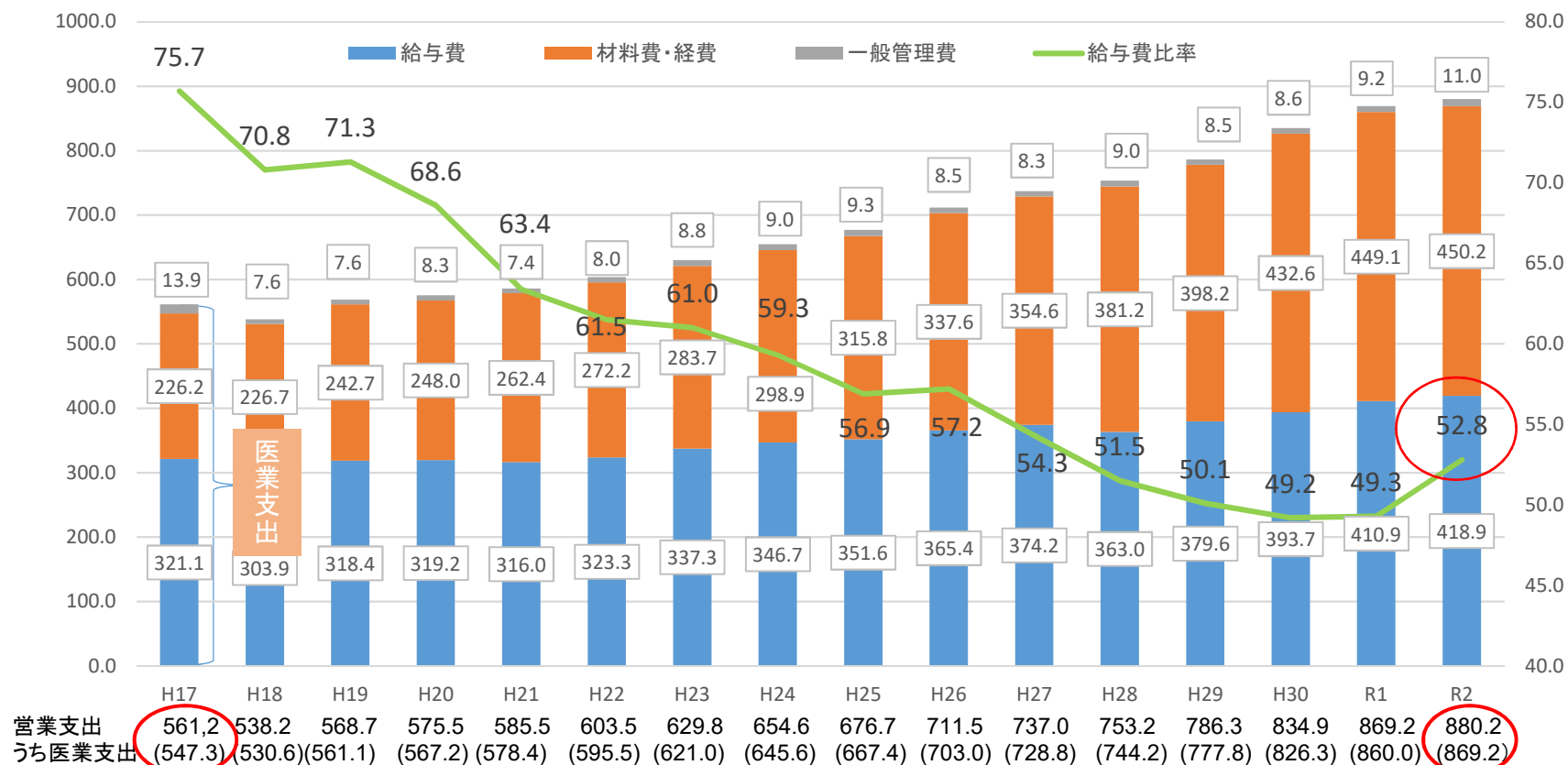
- 医業収入額は、独法化前の約**1.9**倍(+369.6億円) ≪①430.9⇒②800.5≫
- 運営費負担金額※は、独法化前の約半分に(▲56.6億円) ≪①111.9⇒②55.3≫
- 営業収入に占める運営費負担金の割合は1/3以下に(▲14.3%) ≪①20.1⇒②5.8≫



営業収入 556.4 548.6 574.2 589.9 619.2 649.1 668.5 695.7 716.4 730.9 780.0 774.0 827.0 868.8 900.7  
 949.6  
 ※端数処理のため、合計が一致しない場合がある

## 営業支出の推移

○医業支出額は、独法化前の約1.6倍(+321.9億円)《⑰547.3⇒⑳869.2》だが、  
 給与費の実額は、独法化前の約1.3倍(+98億円)《⑰321.1⇒⑳418.9》にとどまり、  
 給与費の比率も、独法化前の約2/3に(▲22.9%)《⑰75.7⇒⑳52.8》



※端数処理のため、合計が一致しない場合がある

## 病院ごとの経営状況

名称	病床数 (床)	診療科数 (科)	医師数 (人)	医業収入 (億円)	運営費負担金 (政策医療分) (億円)	築年 (年)
大阪急性期・総合医療センター	865	35	180	290.3	16.7 (7.2)	1987
大阪はびきの医療センター	426	21	70	80.7	10.9 (8.9)	1973
大阪精神医療センター	473	3	30	37.8	17.6 (15.3)	2013
大阪国際がんセンター	500	29	147	257.6	20.4 (9.8)	2017
大阪母子医療センター	343	21	116	139.2	16.8 (14.1)	1981
計	2,639	—	543	805.6	83.4 (55.3)	

病床数、診療科数、医師数はR3年4月1日現在。 医業収入、運営費負担金は令和2年度決算値  
 ※端数処理のため、合計が一致しない場合がある

## 決算の概要 (R2年度)

単位:億円

科目	急性期	はびきの	精神	国際がん	母子	合計
収入合計	382.0 (35.8)	123.9 (17.2)	62.0 (2.6)	288.7 (4.1)	167.0 (3.3)	1,026.2 (65.6)
医業収入	283.2 (▲26.6)	81.1 (▲10.8)	38.1 (▲2.5)	259.3 (1.6)	138.9 (▲3.0)	800.5 (▲41.3)
運営費負担金	7.2 (▲0.4)	8.9 (▲0.2)	15.3 (▲0.3)	9.8 (▲0.2)	14.1 (0.1)	55.3 (▲1.0)
補助金等収入	60.0 (58.7)	20.2 (20.0)	5.3 (5.3)	2.2 (1.4)	3.4 (3.1)	93.7 (91.2)
支出合計	343.2 (4.1)	116.0 (8.5)	57.2 (1.3)	288.0 (4.4)	161.1 (0.5)	976.7 (20.8)
医業支出	305.4 (0.1)	100.4 (0.4)	51.9 (1.1)	263.4 (6.9)	148.1 (0.7)	869.2 (9.3)
資金収支差	38.8 (31.7)	7.8 (8.7)	4.8 (1.3)	0.7 (▲0.3)	5.9 (2.7)	49.5 (44.8)
病床利用率(%)	74.0 (▲16.6)	62.4 (▲16.3)	79.0 (▲7.9)	86.0 (▲2.4)	84.1 (▲7.0)	-
平均在院日数 (日)	11.0 (0.6)	11.4 (▲0.6)	113.3 (▲17.4)	9.6 (▲0.4)	9.5 (0.0)	-

( )は対前年度比

# 決算の概況と今後の見通し

---

## ■ 資金収支決算

- 新型コロナウイルスの影響により受診控え、コロナ患者受け入れに伴う病棟閉鎖等により、医業収入は前年度と比べ 約41億円減少し、800億円となった。
- 支出面では、新型コロナ患者への診療に従事する職員への手当等の増加により、医業支出は前年度と比べ、約9億円増加し、869億円となった。
- 医業収支で見ると、約69億円の赤字だが、新型コロナ関連の補助金等の99億円の収入により、資金収支決算は約50億円の黒字となった。

## ■ 損益計算書の経常損益

- 営業損益では、新型コロナの影響により医業収益が減少したが、補助金収益の増加により約78億円の黒字となった。利息や消費税の支払いなどの営業外費用を含めた経常損益では、約40億円の黒字となった。

## ■ 今後の見通し

- 今後の新型コロナウイルスによる影響は予測できないが、第4期中期計画の目標達成に向け、課題を把握。
- 今後の収支を見通した病院経営に努め、引き続き、患者・府民に必要とする医療を提供していく。